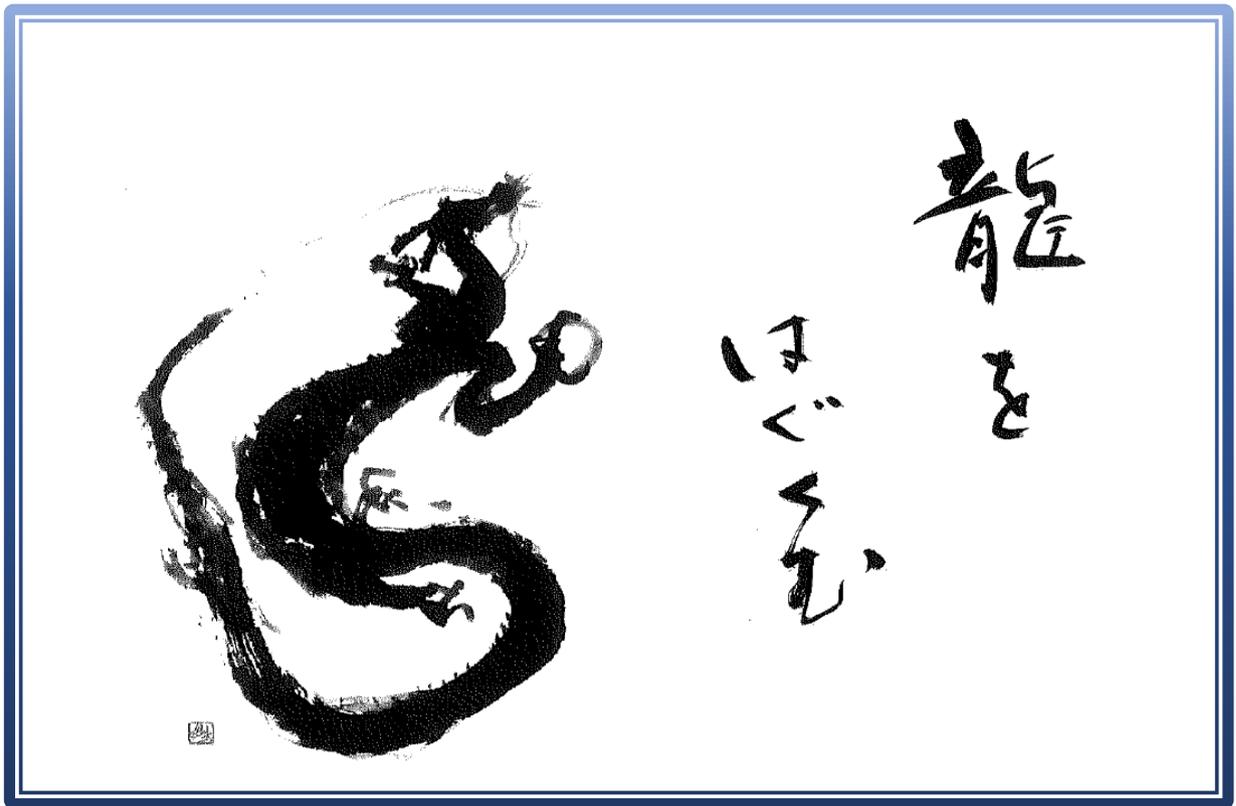


—令和元年葉月（8月）のことば—



この夏も町内の小学生たちが坐禅とラジオ体操をしに正光寺にやって来ます。子供たちを見ていると、健康で充^{じゆうじつ}実の人生であってほしいと願わずにはおられません。「世界一幸福^{こうふく}な国」と呼ばれているブータン王国のジグミ・ケサル・ナムゲル・ワンチュク国王夫妻^{ふうさい}が2011年11月18日に福島県相馬市の桜丘小学校^{ほうもん}を訪問した際^{さい}に、東日本大震災で被災した子供達^{おく}に向けて贈^{おく}られたお言葉^{しょうかい}を紹介^{しょうかい}しましょう。

『皆さんは、龍^{りゅう}を見たことがありますか？私^{わたし}はあります。王妃^{おうひ}もありますね。龍は何を食べて大きくなるのかを知っていますか？龍は経験^{けいけん}を食べて大きく成長^{せいちょう}していくのですよ。私たち一人ひとりの中に「人格^{じんかく}」という名の龍^{りゅう}が存在^{そんざい}しているのです。その龍は年をとり、経験^{けいけん}を食べるほど強く大きくなっていきます。人は経験^{けいけん}を糧^{かて}にして強くなることのできるのです。そして何よりも大切なことは、自分の龍^{りゅう}を鍛^{きた}えて、きちんとコントロールすることです。私^{わたし}がこの「龍^{りゅう}」の話^{わたり}をブータンの子どもたちにする時には、同時に「自分の龍^{りゅう}を大切に養^{やしな}いなさい、鍛^{たんれん}錬^{れん}しなさい」ということを言っています。わがま^{わがま}を抑^{おさ}えることや、感情^{かんじょう}をコントロールして生きることが大切^{たいせつ}なのです。』と語られました。

世界のほとんどの国は経済^{けいざい}的に豊^{ゆた}かになることを目指^{めざ}していますが、ブータン王国は全ての国民^{こくみん}が幸せになることを目指^{めざ}しています。それは経済^{けいざい}的・物質^{ぶつしつ}的な幸福^{こうふく}というよりも「足^たることを知^しる」を前提^{ぜんてい}とした仏教^{ぶつぎょう}の教えによるものです。日本もここへ立ちかえらなければ幸せにはなれないような気がします。なぜなら、これこそが究^{きゆう}極^{きよく}の幸せなのですから…。